

県外派遣報告書

審判員名	小泉 登	所属	ミニ連
大会名	第36回関東ミニバスケットボール大会		
期 間	2015/1/10～2015/1/12		
会 場	ALSOK ぐんまアリーナ		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
1月10日(土)	審判会議	ALSOK ぐんまアリーナ	
1月11日(日)	男女予選リーグ	ALSOK ぐんまアリーナ	
1月12日(月)	男女1, 2, 3位リーグ	ALSOK ぐんまアリーナ	
講師			
佐藤 弘之氏(群馬県バスケットボール協会 審判委員長) 菊地 真吾氏(群馬県バスケットボール協会) 吉井 秀樹氏(群馬県バスケットボール協会) 塚越 直樹氏(群馬県バスケットボール協会)			
会議 講義 内容			
審判会議講師: 佐藤 弘之 氏 テーマ「 良い判定をするために ～気づきと4原則～ 」 ①はじめに 審判とは、ゲームをスムーズに進行するために必要不可欠な役割。 プレイヤー、コーチ、観客と共に、お互いがリスペクトできる関係を築いていかなければいけない。			
②審判に求められているもの プレイの理解・ルール・マニュアルの理解・フィットネス・判定力 ゲームの中において、 審判は、問題が起こる前に気づき、準備することをしなくてははいけない。 良い判定をするための 気づく力 を磨かなければならない。 審判が何かに、 ・気づく⇒ファウル・トラベリング⇒足を使って現場に向かう、確認、判定 ・気づきが遅れ⇒プレイの対応、確認ができず、判定ができない ・何も気づかないこと ⇒足を運ぼうという意識がでてこない 気づくために 気づく努力をする ⇒ 気づきを増やしていく ⇒ 足を運ぶ 気づく努力をするために、やらなくてははいけないこと ◎事前の情報収集(過去のゲーム、どういったプレイヤーがいるか等の情報など) ◎ゲーム中に 気づくべきもの ・ディフェンスの種類・選手の特徴・タイムアウト中やその終了後 ・オフェンスの特徴・コーチの言動・プレイヤーのマッチアップ・チームファウルの数 など			
③マニュアル4原則に従って ボクシング・イン: 自分の責任エリア内における、プレイの始まりを捉えるための役割分担を理解する オールウェイズムービング: エリア3だから見に行くのではなく、リードレフリーからは見えないので、トレイルが動く ペネトレイト: ショットのスペースは100%とらえる。踏み込んだり、受けたりという動きが必要 スペースウォッチ: 上記が、良いスペースウォッチングを生み出し、良い判定につながる スペース(スペースウォッチ)を意識すると…プレイの始まりに目を当てて、(ボクシング・イン)・自然と自らが動き、(オールウェイズ・ムービング)・プレイの最後を見極めるために踏み込む。(ペネトレイト)			
④最後に 2人の協力とは ⇒ 自分のエリアを責任もって判定すること 守るべきものはルールであり、マニュアルは活用するものである。 気づき、足を運び、必死に対応を続けること ⇒ ゲームがスムーズに進行する 負けたチームからも握手をしてもらえるように、審判員として、気づく努力を続けていかなければならない			

実技				
担当試合	期 日	平成27年1月11日(日)	男子 <input checked="" type="radio"/> 女子	
	対戦カード	白根あずま VS 並木	主審	<input checked="" type="radio"/> 副審
	相手審判	中島氏(群馬)		
ミーティング内容		主任 山野辺氏(茨城)		
<p>反省として1試合を通して、明確な基準が作れない試合になってしまった。その理由は、1Qの時に簡単に取り上げればよかった”手の使い方”を、”プレーが出来る”と判定して取り上げずにプレーをさせてしまった為である。それにより、後半に入ってから基準を変えることが出来ず、積み上げることが出来なかった。もっともっと審判として、プレイヤーを正しい方向に導けるように、笛をいれるべきであった。</p>				
担当試合	期 日	平成27年1月11日(日)	<input checked="" type="radio"/> 男子 <input type="radio"/> 女子	
	対戦カード	新田 VS ジュニアファイブ	主審	<input checked="" type="radio"/> 副審
	相手審判	横山氏(本部)		
ミーティング内容		主任 田島氏(群馬)		
<p>1試合目の反省から、基準作りを1Qから明確にできるように意識して試合に臨んだ。ジュニアファイブのカギとなるプレイヤーに対する守り方を、横山氏にファーストコールで示してもらい、同じ基準で自分も判定することができた。自分としては1Qで明確にしたその基準を、1試合を通して貫くことが出来たと感じた。</p> <p>反省として、基準としては明確であったが、本当にその基準が試合にマッチしていただろうかという言葉を受けた。試合の流れ、プレイヤーの力の差を考えたとき、鳴らさなくて良いものももっとあったのではないか。鳴らすのは簡単であるが、もっと試合の流れを感じて、鳴らすべきプレーの見極めを行っていかなければならない。</p>				
担当試合	期 日	平成27年1月12日(月)	<input checked="" type="radio"/> 男子 <input type="radio"/> 女子	
	対戦カード	ブラックローズ VS 利根	主審	<input checked="" type="radio"/> 副審
	相手審判	攪上氏(群馬)		
ミーティング内容		主任 小池氏(山梨)		
<p>トレイルからニューリードに入るのが早すぎる傾向にある。2人の距離が遠くなり判定不能な場面が見受けられた。もう少し踏みとどまってもよい時があるのではないか。またトレイルの位置が高い時がある。1番エリアからポストにボールが展開された時、同じ位置でプレイを見続けるので、ショットに対する触れ合いが、判定できていない時がある。ベンチからの方が良くスペースが見えるためにアピールをされたプレイに明確にファールではないと伝えられなくなってしまう。審判会議であったように、最終のスペースを捉えるため4原則をもっと意識しなければならない。</p>				

	期 日	平成27年1月12日(月)	男子	女子	
担当試合	対戦カード	高崎北部	VS	関根町	主審
	相手審判	大坪氏(栃木)			
ミーティング内容		主任 道下(群馬)			
<p>終始手の使い方や、体のあて方でよくないプレーが多い試合であった。そういった試合に対して、根気よく笛を入れ続けなければならない、2人で協力して粘り強く吹ききったとの事。しかし、もっともっとスペースにこだわり、細かくプレイの確認をして、判定した方が良かった。この試合にかける、プレイヤー・ベンチ・観客の気持ちを感じて、試合にしっかりとマッチする笛を目指すべきである。</p>					
全体の感想					
<p>埼玉関東・神奈川関東に続き3回目の関東大会派遣となりました。他県の方にも少しずつですが覚えて頂き、各県審判長はじめ、多くの審判の方とコミュニケーションをとることができました。そういった中で、初めて知ることも多く、大変勉強になりました。また関東大会に照準を合わせてきたプレイヤー・コーチ・観客の思いを感じながら、1日2試合を担当するという事は、本当に心身共に疲れることです。ただこういった経験が、少しずつ自分を成長させてくれると思い、派遣して頂いた事に大変感謝しております。審判会議やミーティングでのことを、しっかりと自分の中に取り入れ、活動を続けていこうと思いました。</p> <p>最後に関東ミニバスケットボール大会に派遣いただきありがとうございました。群馬県の方々には3日間大変世話になりました。</p>					